



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2020年3月10日発行 第23号

今、世界中が大変なことになっています。「新型コロナウイルス」の影響がいろいろなところで発生し、密閉空間で行われるコンサートなどは、即座に中止となるところが多いようです。本アカデミー事業の一つでもある「出雲の春音楽祭2020」も御多分に洩れなく中止！となりました。1年間準備してきたことが、一瞬に消え去ることの影響は計り知れないものがあります。この空虚感を埋め合わせるには、関係者が一丸となって前進することを、私たちに投げかけられた試練と受け止めなくてはならない気がします…。

まさに、ピンチをチャンスに切り替える心構えというところでしょうか！

◎ 参観（研究）講座を開催！

本アカデミーが開設されてから初の試みとして、講座が公開されました。この開催趣旨は、受講生が前向きに取り組めるための講座改善や指導者のスキルアップを目指したものです。開催するにあたって快く応じていただいたのは、本科「音楽入門」講座です。この講座には、小学1年生から3年生までの19名が在籍し、音楽の三要素である「メロディー」「ハーモニー」「リズム」を中心に基礎的な要素を学ぶ講座です。この講座は楽譜の読み方を学び、様々な表現につなげる最初の登竜門というところでしょうか…。ここから、本アカデミーのジュニア・フィルにつながり、やる気次第では、出雲フィルハーモニーで活躍できるシステムとなっています。

今回の参観講座の題材は、「リズムを通じた読譜力の向上」というものでした。この目的を達成するための教材が優れていました。リズム譜に言葉が当てはめてあり、難解なリズムでも言葉で読み替えることで、わかりやすく学べるように工夫されていました。リズムに加え、強弱や速度の変化にも対応できるよう音楽記号の学びにも生かすことができ、読譜力向上が期待できる教材として評価できるものでした。

音楽入門講座を受講している受講生は、指導者の声がけに素早く反応し、様々なつづやきを聴くことができ、いろいろなことを考えながら受講している様子がよく伝わりました。つづやきが出るということは、意欲的に取り組んでいる証拠ですので、このつづやきが生かされる工夫がなされれば、受講生たちが参加している喜びをもっと感受できるものと思われれます。また、教材のリズムにダイナミクスが加わり、表現がより豊かにできることを通して、音楽の楽しさを味わっている様子が受講生たちの表情からも伺うことができました。歌声も素直な発声で臨み、普段からの音楽に対する基礎的な要素がしっかり学べている印象を強く持ちました。



受講生たちの「やる気」を引き出す工夫の手立てとして、▼楽しく学べる環境づくり▼

教材の工夫で期待を高める▼短期目標を繰り返しやる気の維持を図る▼少しでも結果が出たらすぐに褒める▼他の受講生の考えを受け入れ自己のスキルアップにつなげる等が挙げられると思います。今回の参観講座でも多くのことが実践されていたようです。

この度、参観講座を公開していただき、指導者も参観者も受講生たちも様々な立場から普段とは違い、学びのふり返りにつながったのではないかと思います。この経験を活かし、少しずつでも意欲向上につながることを期待します。

◎ 講座を活用した楽器体験を実施！

音楽入門の延長線で、将来、Jr.フィル及び Jr.コーラスで活躍する受講生たちに、広く楽器を紹介する意味で、今回はファゴットを体験していただきました。受講生にとってこのような体験ができるのは、アカデミーならではのことであり、特に今回の楽器は珍しいらしく興味津々…。間近で聴く音の感触や楽器の構造に興味が増したようです。実際に体験する場面では、音の発生源となる葦で出来たダブルリードに変え、ストローを代役に使用し、演奏するうえで工夫がなされていたために気軽に音出しができたようです。受講生の表情からも楽しそうに体験している様子が伝わり、ファゴットを本格的に演奏してみたいという願望が増してくれたことと思います。



Fgの音色に興味津々！



ストローでブーッ！

他の楽器でも実践していくと、その楽器の特徴や音色に興味が増すことにつながると思われるので、これを機会に今後の企画が待たれるところです。

◎ 「出雲の春音楽祭2020」が中止となった影響！

本アカデミーが始まって以来、計画していたコンサートが中止となったことは前代未聞のことでした。「新型コロナウイルス」の影響が世界中を巻き込み、社会生活がままならぬところまで迫ってきたことによるものでした。およそ1年前から準備が進められ、「間奏曲」特集としての公演予定でした。“平野一郎”氏による委嘱作品、交響神楽間奏曲「湖」の世界初演も公演間近という時。そして、交響神楽第四番「大穴牟遲」の再演も準備万端整ったその時に中止となり、想像だにできなかった出来事に困惑するばかりでした。間奏曲というテーマに大作曲家による様々な間奏曲と過去のNHK大河ドラマのメインテーマを交互につなぎ合わせる工夫された演出も魅力あるものでした。邦楽アンサンブルに至っては、発表の機会そのものが奪われるなどの大きな影響がありました。しかし、ここで終わりとするのではなく、形は違っても近い将来には再現されるよう知恵を絞っていくことが、今の私たちに課せられた問題として受け止めていきたいと思っています。そういう意味で、アカデミー内部改革も辞さぬ覚悟で取り組めるよう中止となった期日を活用し、諸会議が連続して開催できたことは、さらに前進するためには大変有意義な機会となりました。再演や改善を要することについては、3月29日に予定されている「アカデミー指導者会」で芸術監督から発表があります。改善されるキーワードは「チェンバーオーケストラ」とだけお伝えしておきます…。

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】